

2018年度 南種子町郷土館 年報



南 種 子 町 郷 土 館

鹿児島県熊毛郡南種子町中之上2420-2

TEL (0997) 26-1111

目 次

館 沿 革	1
館 日 誌	2
1. 施設の防火設備及び危難経路	3
2. 事 業	4
①展 示	4
②展示の概略	6
③企画展	7
④資料収集活動	8
⑤新収蔵資料	8
3. 教育普及活動	8
■体験学習	8
①勾玉づくり体験教室（広田遺跡ミュージアム出向）.....	8
②勾玉づくり体験教室（広田遺跡ミュージアム出向）.....	8
③郷土館及び埋蔵文化財センター体験学習（通年）.....	9
④南種子町埋文化財センター体験学習室利用状況	10
⑥南種子町埋文化財センター体験学習内容	10
4. 入館者数	13
5. 郷土館の組織	14

南種子町郷土館の沿革

- 昭和44年 2月28日：町立博物館設置準備委員を委嘱
- 昭和44年 3月 7日：第1回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 3月25日：資料収集協力員と準備委員との合同会
- 昭和44年 4月14日：第2回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 5月16日：第3回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 6月 7日：第4回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年 9月13日：第5回町立博物館設置準備委員会
- 昭和44年11月 1日：大曲の宇宙ヶ丘公園に、「南種子町立南島民俗博物館」として開館。
- 昭和44年11月17日：第6回町立博物館設置準備委員会（最終）
- 昭和61年 3月 5日：旧国民保養センターを改装して「南種子郷土館」として開館
- 平成19年 2月 1日：旧郷土館の老朽化に伴い、旧公立種子島病院跡に一時移転して開館
- 平成21年 4月30日：館内の広田遺跡展示室を改修工事
- 平成24年 4月 1日：社会教育課とともに、郷土館も旧南種子高等学校跡（南種子町中央公民館に改名）に移転して開館
- 平成28年 4月 1日：社会教育課が本庁舎へ移転、郷土館の事務所と上中児童クラブが併設

館日誌

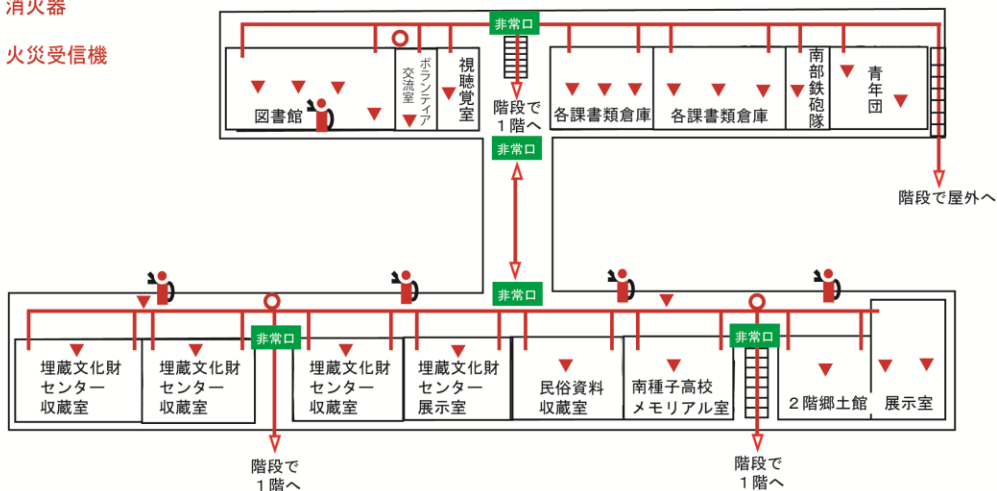
- H30.
- 4. 1 県指定文化財「南種子町のインギー鶏」パネル展開催
 - 4. 11 上中児童クラブ（1年生）来館
 - 4. 26 第1回インギー鶏育種会総会開催
 - 5. 3 郷土館との協賛事業 ゴールデンウィーク イベント「昔の子供の
～5 遊び体験」を広田遺跡ミュージアムで開催（5日は指導者として、
広田遺跡ミュージアムへ出向）
 - 5. 16 勾玉づくり体験学習（指導者として広田遺跡ミュージアムへ出向）
 - 5. 18 町立島間小学校（3年生）来館
 - 5. 23 勾玉づくり体験学習（指導者として広田遺跡ミュージアムへ出向）
 - 6. 1 郷土館管理委員会開催
 - 6. 15 町立花峰小学校来館
 - 7. 1 「うみがめ」パネル展開催
 - 7. 27 茅切安雄氏寄贈資料収集
 - 7. 31 離島甲子園関係者来館
 - 8. 2 中央公民館の防災設備点検
 - 8. 24 企画展「(故) 森越功先生寄贈資料展」のための取材（岩元一郎氏宅）
 - 10. 10 企画展「(故) 森越功先生寄贈資料展」開催
 - 11. 2～3 上記記載の企画展をふるさと祭り展示会場に搬入して展示
 - 11. 2 「宝満池の鴨突き網猟」パネル展示
 - 11. 17 中央公民館の防災施設調査
 - 12. 24 愛知県飛島村友好都市交流団来館
- H31.
- 1. 17 町立西野小学校寄贈資料の収集
 - 2. 1 企画展「昭和のふるさと写真展」開催
 - 2. 1 峰山祝文氏寄贈資料収集
 - 2. 8 テレビ朝日番組取材及び撮影（山本直純音楽記念室）
～9 山本直純氏長男「山本純ノ介」氏ご夫婦が撮影のため来館
 - 2. 12 第2回インギー鶏育種会総会開催
 - 2. 14 町立長谷小学校来館
 - 2. 21 町立中平小学校（3年生）来館
 - 2. 22 インギー鶏認定調査の実施
 - 2. 24 インギー鶏品評会開催

1. 施設の防火設備及び避難経路

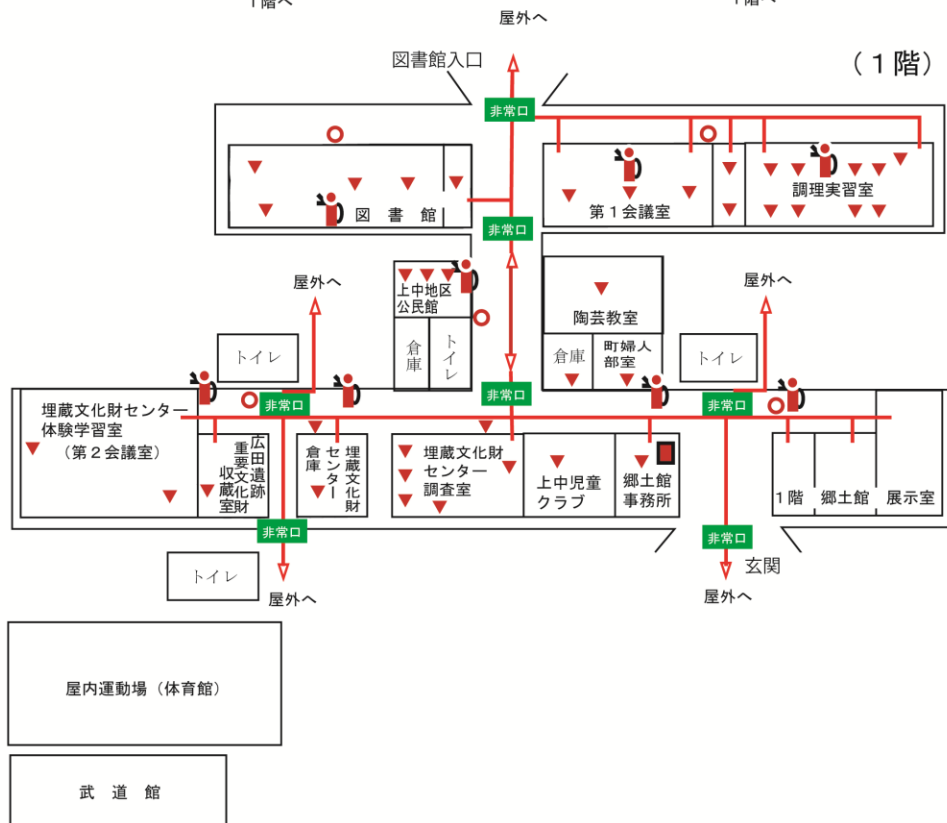
■南種子町 郷土館 中央公民館 の防火設備及び避難経路

- 火災報知機
- ▼ 煙・熱等の感知器
- 🚒 消火器
- 火災受信機

(2階)



(1階)



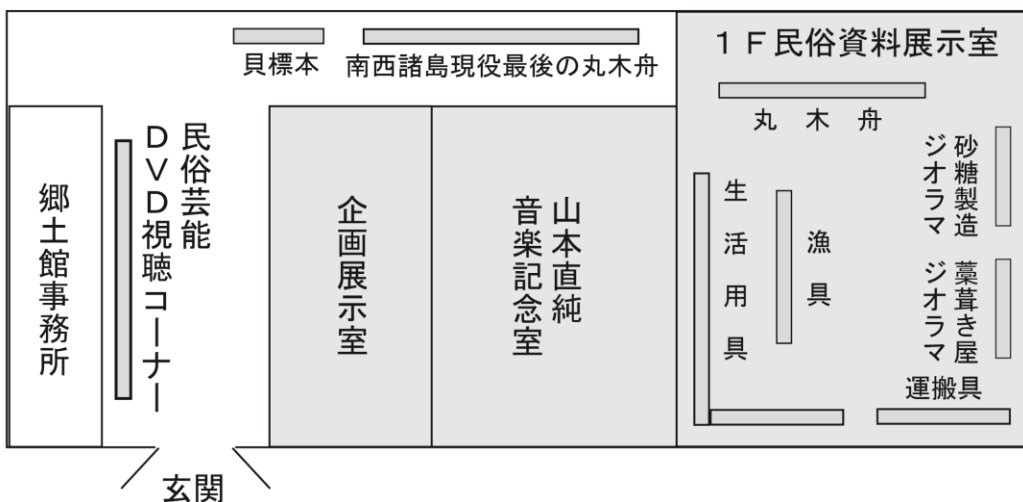
屋内運動場 (体育館)

武道館

2. 事業

① 展示

1階 展示室



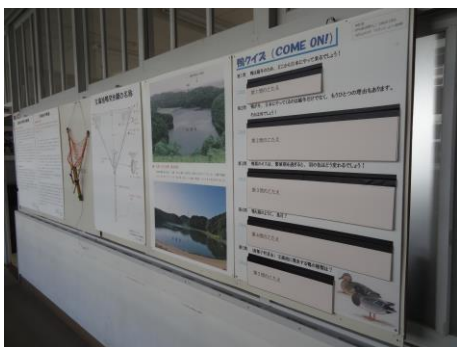
1階民俗展示室（生活用具）



山本直純音楽記念室



1F廊下 南西諸島
現役最後の丸木舟

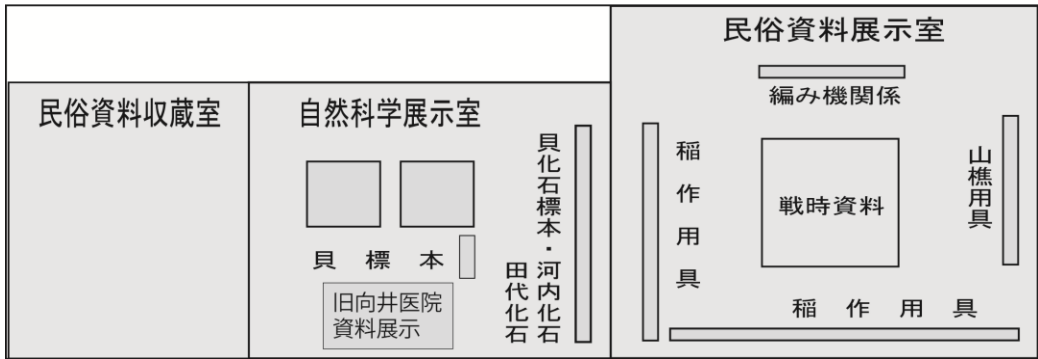


1階廊下壁面（過去の企画展より）
「宝満池の鴨突き網猟」パネル展示



企画展示室「（故）森越功先生寄贈資料展」より

2階 展示室



2階民俗展示室（稲作用具）



2階民俗展示室
（戦時資料）



2階民俗展示室（山樵用具）



2階自然科学展示室（貝標本）

②展示の概略

■民俗展示室（1階）

住まいに関する生活用具を中心に展示。

壁面や空スペースを利用して、丸木舟や馬車などの大型資料も展示しています。丸木舟（刳舟）については、通常のもの、隣接する廊下に南西諸島において現役で最後まで使用していた丸木舟（牛野春芳氏寄贈）とを比較展示することで、それぞれの歴史や生活感の違いを感じて欲しいと思います。

■山本直純記念室（1階）

山本直純氏愛用の楽器・オーディオ機器・レコード・盾・賞状などの寄贈品を展示。また、山本直純氏との交流のきっかけとなったイベント「英国祭トンミーフェスティバル」についてもパネルで紹介しています。

■企画展示室（1階）

今年度は、「(故) 森越功先生寄贈資料展」・「昭和のふるさと写真展」を開催しました。写真は、「(故) 森越功先生寄贈資料展」の様子です。

■廊下壁面展示板（1階）

1階廊下の窓枠に展示板を設置し、過去の企画展のパネル展示を行いました。写真は毎年11月15日～翌年2月15日の猟期間に行われている県指定文化財「宝満池の鴨突き網猟」のパネル展示です。

■民俗展示室（2階）

稲作用具を中心とする農具や山で使用する山樵用具等を展示。

また、展示スペースの問題で、軍服・勲章・遺書などの戦時資料等も、同室に展示しています。

■自然科学展示室（2階）

今から1600万年前の河内貝化石群や500万年前の田代化石をはじめとする貝の化石標本を展示しています。また、併せて、種子島で採集した貝の標本も展示しています。

■廊下壁面展示板（2階）

2階廊下の窓枠に展示板を設置し、過去の企画展から「労働の内容によって使い分けられた馬の鞍」についてのパネル展示を行いました。

③企画展

今年度は、本町で初の産婦人科を開業し、地域医療の発展に大きく貢献された（故）森越功先生の寄贈資料展と懐かしい昭和の時代をふるさとの風景やイベント等々を写真で振り返る「昭和のふるさと写真展」を開催しました。

■（故）森越功先生寄贈資料展（平成30年10月10日～12月27日）

森越功先生は本町で初の産婦人科医院を開業し、地域の産婦人科医療はもとより、長年地域医療を支えて下さいました。また、先生は町の文化協会の初代会長としてもご活躍され、地域文化の発展にも大きく貢献されました。企画展では先生が使用された医療機器をはじめ、趣味としての写真や油絵の展示も行いました。



町ふるさと祭りでの展示風景

また、今回はより多くの方々に企画展をご覧になっていただくために、11月2～3日の町ふるさと祭り期間中、近隣のふるさと祭り展示会場において展示を行いました。会場にはたくさんの方々が訪れ、当時を懐かしく感じておられました。

***入館者数：291名**

**（幼児：3名・小学生：60名・中学生：3名
高校生2名・大学生：2名・一般221名）**

■昭和のふるさと写真展（平成31年2月1日～3月31日）

5月には新しい元号に変わるということで、ますます昭和が懐かしく感じられるようになりました。そこで、今回の企画展では、そうした懐かしい昭和をふるさとの風景やイベント等々の写真で振り返ってみることにしました。

また、写真に加えて、懐かしい暮らしの用具や風物をジオラマで表現した資料等も展示して、より身近に昭和が感じられるように演出してみました。



***入館者数：171名（幼児：1名・小学生：54名・中学生：7名・高校生：4名
大学生：2名・一般：103名）**

④資料収集活動

今後も町の広報紙での呼びかけや文化財保護審議委員からの情報提供をお願いしながら、資料の収集活動を行っていきます。現在、2階の「自然科学室」の半室を民俗資料の収蔵室（Ⅱ）として活用しています。

⑤平成30年度 新収蔵資料

提供者	住所	資料名（個数）
茅切 安雄	上中	キンナメジュウ（3）・提げ重箱（1）
西野小学校	西之	田押車（1）・粃干しの拡散用具（1）・藁草履（2） 藁蓑（1）・ハットク（1）・ホラ貝（1）・ガンドウ（1） ハンドル式黒電話（1）・ブリキ製湯たんぽ（1） ポータブルレコードプレーヤー（1）・5珠算盤（1） 8ミリビデオレコーダー（1）
峯山 祝文	島間	県立南種子高等学校第5回卒業記念写真帳（1） 南種子村役場乾繭場新築記念写真帳（1）
河野 京子	上中	種子島家譜（4）

3. 教育普及活動

■体験学習

① 勾玉づくり体験学習「広田遺跡ミュージアム体験学習出向」（平成30年5月16日）

平成30年5月16日、広田遺跡ミュージアムへ「勾玉づくり体験学習の講師」として、出向きました。まず、勾玉について簡単な説明をした後、製作の方法やコツについて述べてから製作にかかりました。時間の関係で、少し細身の勾玉をデザインしている人には、ノコギリを使って少しカットして時間内に終わるように手伝いをしましたが、少し予定時間をオーバーしてしまいました。*97名（小学生：91名・引率：6名）

② 勾玉づくり体験学習「広田遺跡ミュージアム体験学習出向」（平成30年5月23日）

平成30年5月16日、広田遺跡ミュージアムへ「勾玉づくり体験学習の講師」として、出向きました。今回は、時間の関係で勾玉についての説明を省き、製作の方法やコツについて述べて製作にかかりました。前回同様、少し細身の勾玉や複雑な形をデザインしている人にはノコギリを使って少しカットして時間内に終わるように手伝いをしました。今回は中学生ということで、少し余裕をもって終了することができました。

*83名（中学生：77名・引率：6名）

③郷土館及び埋蔵文化財センター体験学習（通年）

今年度も従来、郷土館の体験学習として行っていました割りばし鉄砲・ブンブンゴマ・竹鉄砲に加え、紙粘土でつくる勾玉づくりやタカラガイを使った貝殻アクセサリーづくり・土器づくり・縄文アンギン編みによるコースターづくりなどの埋蔵文化財センターの体験教室も併せて実施しました。



紙粘土勾玉づくり



割りばし鉄砲づくり



土器づくり



アンギン編みコースターづくり



貝殻アクセサリーづくり



竹トンボづくりと飛ばし方体験

④南種子町埋蔵文化財センター体験学習室利用状況

月	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	一般	計	町内	島内	島外
4月合計	1	35				3	39	39		
5月合計		52	2				54	54		
6月合計	2	40	1			7	50	50		
7月合計	1	43	1			6	51	51		
8月合計	1	35				4	40	36	4	
9月合計		25				3	28	28		
10月合計		27				6	33	33		
11月合計		1				1	2	2		
12月合計		32				2	34	24		10
1月合計		1				1	2	2		
2月合計		15				1	16	16		
3月合計		8					8	8		
計	5	315	4	0	0	34	358	344	4	10

⑤体験学習内容

*割りばし鉄砲づくり

割りばし鉄砲は、割りばしと輪ゴムを使って鉄砲をつくり、輪ゴムを飛ばす昔の子供の遊び道具です。本町、南種子町は1543年（天文12年）、明国船（ポルトガル船籍）が漂着し、乗っていたポルトガル人から鉄砲が伝わったという歴史的背景もあることから、その史実も伝えながら割りばし鉄砲づくりを行っています。

銃砲の長さを長くすることで、よりスピードや威力がつきますが、コントロールは少し難しくなります。また、輪ゴムを掛けた時にすぐに飛んでしまう場合は、引き金に暴発防止の輪ゴムを取り付けます。銃口には、カッターで溝を掘って輪ゴムを掛ける方法と十字型になるように輪ゴムで取り付け、輪ゴムを掛ける方法がありますが、体験学習では、怪我をしないように、後者の十字型にしています。さらに、鉄砲に自分の好きな色を塗って、楽しむ子供たちもいます。

製作後は厚紙でつくった恐竜の的をねらって倒し、的につけられた点数を競うゲームも行っています。想いは、古代の恐竜ハンターになったつもりで楽しみます。

*** ブンブンゴマづくり**

ブンブンゴマは、ダンボールや発泡スチロールに紙を貼った紙パネル板などを丸く切って、中央に2か所穴をあけてヒモを通し、ヒモを引っ張ったり、緩めたりすることでヒモがよじれたり、元に戻ろうとする原理で丸いダンボール板（紙パネル板）を回す昔の遊び道具です。このよじれたヒモが元に戻ろうとする原理は、舞hiri式の火おこし道具の芯棒（摩擦棒）を回す原理と同様であることから、「火おこしの体験学習」を行う際にも紹介しています。

また、ダンボール板に様々な模様や色を塗ることで、コマが回った時にできる微妙な色合いを楽しむこともできます。コマに塗られている色には、健康への願いが込められており、昔は新築や入学のお祝い・5月の節句・結婚式の引き出物などに贈られていたといえます。

* 赤色は心臓の健康・黒色は腎臓の健康・黄色は肝臓の健康・緑色は脾臓・白色は肺の健康を意味するといわれています。

*** 紙粘土でつくる勾玉づくり**

広田遺跡ミュージアムでは滑石という軟らかい石を紙ヤスリで削って勾玉づくりを行いますが、埋蔵文化財センターの体験学習では、まず紙粘土で勾玉の形をつくり、それを乾燥させてから紙ヤスリで表面を磨いていく方法で行っています。勾玉の形づくりは、紙パネルで作った型抜きに紙粘土をつめて抜き取り、整形しますが、型抜きを使用せず、自分で作る人もいます。その後、2～3日乾燥させて着色し、（着色したくない人には、防水のため、透明マニキュアやニスなどで表面をコーティングすることを勧めています）ヒモを取り付けて首飾りにします。

*** 土器作り**

縄文時代になり土器がつくられるようになると、縄文人の食生活は煮込み料理や汁物なども作られるようになり、とてもバラエティー豊かになりました。そうした縄文人たちの土器づくりに対する「アツイ想い」を感じながら、体験学習を行います。

土器づくりでは、まず、器の底をつくり、その上に粘土を紐状に伸ばしたものを積み重ねて行く「紐作り製法」で作ります。また、ヘラで模様をつけたり、星やハートの形に作ったものを土器の胴部にくっ付けたりして、独自の土器を製作する人もいます。

***貝殻アートアクセサリーづくり**

水を入れた紙コップに数種類の色のマニキュアを1滴ずつ垂らすと波紋ができ、それをつま楊枝で花のような模様を作り、その中にタカラガイなどの貝殻を入れて、マーブル模様をつけるものです。マニキュアの色や模様の作り方、貝殻の大きさや貝殻を入れる場所によって、それぞれ違った模様になり、自分だけのオリジナルな貝殻アクセサリーができるのが最大の魅力で、人気があります。

貝殻の模様が乾くまでの時間を利用して、貝に取り付けるストラップのヒモを編みます。

***アンギン（縄文織機）によるコースターづくり**

アンギンは縄文時代の織機で、衣類や物を入れる袋などを麻ひもなどを使って編んでいたようです。体験学習では、実用を兼ねて、お茶やコーヒーカップに下に敷く「コースター」づくりに挑戦しました。子供たちに体験させる前に実際やってみると、1人でヒモを押さえながら編んでいくのは難しく、子供たちには2人1組で体験学習を行いました。

また、マジックで好みの色を着けることによって、写真のように、きれいでオリジナルなコースターを作ることができました。

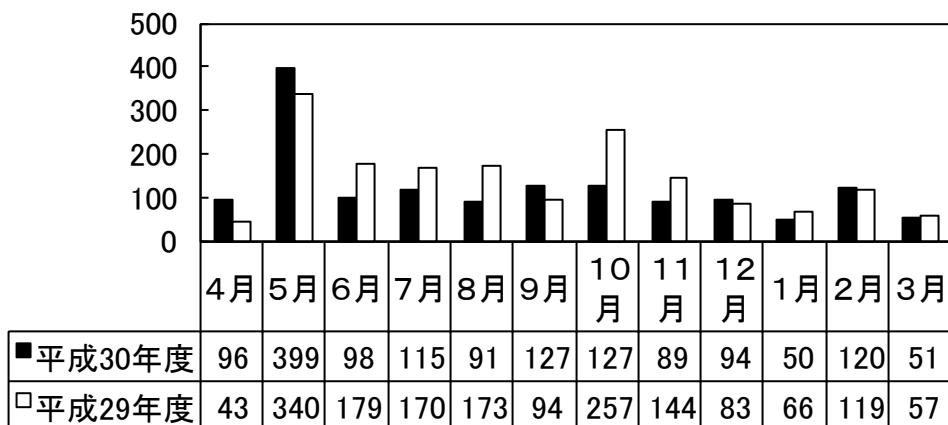
4. 入館者数

平成30年度 南種子町郷土館入館者数調査

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

分類	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	一般	計	町内	島内	島外
4月	1	53	8			34	96	87	1	8
5月	13	165	94			127	399	138	194	67
6月	2	46	10			40	98	85	2	11
7月	4	51	10			50	115	92	11	12
8月	3	38	4		1	45	91	59	11	21
9月	1	34	7		13	72	127	73	2	52
10月	2	27	6	2		87	124	99	6	19
11月	1	6			1	81	89	39	19	31
12月		32			1	61	94	65	3	26
1月	1	3	1			45	50	39	1	10
2月		44				76	120	80	11	29
3月	1	10	7	4	2	27	51	35		16
計	29	509	147	6	18	745	1454	891	261	302

月別 入館者数の動向(前年度比較)



5. 郷土館の組織

- 館長 松山 砂夫（社会教育課長）

- 文化係 才川 いずみ（文化係長）
- 学芸員 石堂 和博
- 学芸員 小脇 有希乃

- 管理員 豊島 巧

- 管理員(補) 平島 強

- 管理委員会委員長 長田 忠（文化財保護審議会委員長）

- 管理委員会副委員長 柳田 和則（文化財保護審議会副委員長）

- 管理委員会委員 岩澤 昭文（文化財保護審議会委員）

- 管理委員会委員 日高 友典（文化財保護審議会委員）

- 管理委員会委員 稗島 悦朗（文化財保護審議会委員）